

# ライスレジンを日常に

## コメプラ タイムス

### 浪江に工場、農業も復興へ

#### バイオマスレジンは福島

「浪江町で作られた素材が世界に当たり前にある日常を作りたい」。コメを使ったバイオマスプラスチック「ライスレジン」を県産米で製造するバイオマスレジン福島が注目を集めている。取材班は浪江町の新しい工場を取材した。

ライスレジンは、非食用米を使ったバイオマスプラスチックのことで、ごみ袋やおもちやなど、幅広くプラスチック製品に使われている。



プラスチック製品に使われるライスレジンの「ペレット」



バイオマスレジン福島の工場

使っているコメは福島県産で、破砕米や廃棄米などの商品として出せないものを買い取っている。コメを最大70%混ぜることで石油系プラスチックの含む量を大きく減らすことができる。

### 県産米が「減プラ」素材に

バイオマスプラスチックは、石油由来のプラスチックに植物由来の成分を混ぜ合わせることでできる。たとえばレジ袋の成分の一部をトウモロコシやサトウキビ、コメなど植物由来に代えることで石油の使用量を減らし、二酸化炭素排出量を減らすことが可能だ。

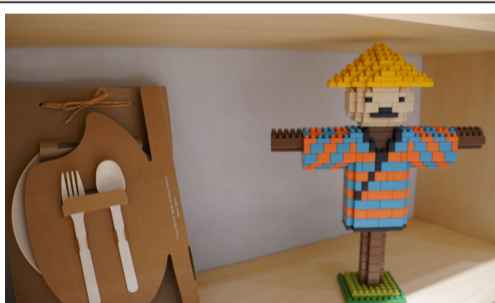


熱で伸ばされた切断前のライスレジン

これは環境づくりや気候変動対策としてSDGsに貢献できる。バイオマスプラスチックは今世界で大きな問題になっている地球温暖化を解決する第一歩だ。

ライスレジンはコメと石油由来のプラスチックを接着剤を使って混ぜ合わせて作る。コメは固い状態なので瞬間的に炊く。熱を与えると伸びる性質を利用して、柔らかくなったコメとプラスチックを混ぜてパスタ状にして、冷やしたものを粒状に切断する。これは「ペレット」と呼ばれ、素材として販売され、他社で加工品に生まれ変わる。

ライスレジンを使った商品は約800種類あり、買い物袋やごみ袋など、主に使い捨てできるものと相性が良い。ホテルで使う歯ブラシや、くしにも使われている。他に積み木のおもちややクリアファイルなどにも使われている。



ライスレジンを使って作られた食器やおもちゃ



ジャーナリストスクール3班 私たちが作りました

- 渡邊悠理 (班長・三春中2年)
- 岸本 悠 (緑ヶ丘中1年)
- 齋藤寿成 (川俣中1年)
- 吉田優希 (伊達小6年)
- 齋藤 祈 (吉井田小6年)
- 橋本世名 (開成小5年)
- 二瓶琥珀 (開成小5年)

#### バイオマスレジン福島 今津 健充さん



被災地の風評被害を払拭したいと話す今津さん

### 「風評被害を払拭」

取材班はバイオマスレジン福島取締役社長の今津健充さん(41)に話を聞いた。

Q なぜコメを使おうと思ったのか。

A バイオマスプラスチックは炭や木材でも作ることができるが、安定的に材料を調達する必要があるので、国内でできるものを探していると、丁寧に管理されているものが良い。日本においてはコメが作られている、そんな世界を目指している。

Q どんな気持ちで被災地から挑戦するのか。

A 浪江町は震災の被害で今もいろいろな苦労をしている。日本や世界の風評被害を払拭(ふっしょく)して、福島は頑張っていると誇りたい。

Q 描く将来は。

A ここにこんな素晴らしい会社、工場があることを知ってほしい。浪江で働きたい、住みたいと思ってもらえるように頑張っている。コメを使ったプラスチックだからといって注目されているうちは、まだまだ。意識されなくても、日常生活に「ある」ようにしたい。

同じ田んぼから年2回収穫する再生二期作を採用し、生産効率が良い品種「きたげんき」を栽培している。また、ドローンで肥料をまくなど、ト農業化を進めている。